



帯広畜産大学 基金報告

第16号
(令和7年度)



帯広畜産大学

Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

目 次

学長挨拶	1
帯広畜産大学基金受入状況	2
令和7年度収支決算	3
学生修学支援事業基金	
令和7年度大学基金奨学生との懇談会を開催	4
基金奨学生からの感謝の言葉	5
海外留学費用給付事業（畜大生グローバルチャレンジ）	16
大学運営支援事業基金	
ちくだいらんぷ事業（学生による社会貢献事業）	18
その他	
ちくだいホームカミングデー 2025を開催	24
寄附者ご芳名	25
感謝状の贈呈	29
帯広畜産大学大学基金運営委員会委員名簿	30
帯広畜産大学基金関連規程	31

学長挨拶

日頃より皆さまには、本学の教育研究活動に対するご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、帯広畜産大学基金事業に対して、多大なるご支援をいただき、重ねて厚くお礼申し上げます。ここに、令和7年度の帯広畜産大学基金事業が無事に実施できましたことをご報告いたします。

近年は、同窓生の皆さま、保護者の皆さま、企業等の皆さまなど、多くの方々に賛助会員にご加入いただき、安定した財政基盤を築くことができいております。基金事業が末永く実施できますよう、趣旨にご賛同いただき、今後とも、帯広畜産大学基金への継続的なご支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご支援いただきました寄附金は、経済的に困窮している成績優秀な学生への奨学金給付、授業料・入学金免除等の学生修学支援事業や、地域における社会貢献活動への助成等を行う大学運営支援事業、老朽化した施設の改修等を行う就学環境の整備事業の実施に際して、大切に使用させていただいております。

今春も、畜産学部共同獣医学課程、畜産科学課程、大学院畜産学研究科、別科酪農専修に373名の学生が入学しました。総勢1,400名の学生が、畜大キャンパスに集い、「食を支え、くらしを守る人材」として、地域および国際社会に貢献すべく、農学、畜産科学、獣医学を学んでいます。

現在、気候変動、エネルギー問題、少子高齢化、多発する自然災害など、多くの課題があります。特に、18歳人口の減少は、大学にとって影響の多い課題ですので、教育の質を高め、修学環境を整備し、魅力ある大学づくりに努める所存です。

つきましては、引き続き皆さまからのご支援を賜りたく、重ねてご協力をお願い申し上げます。

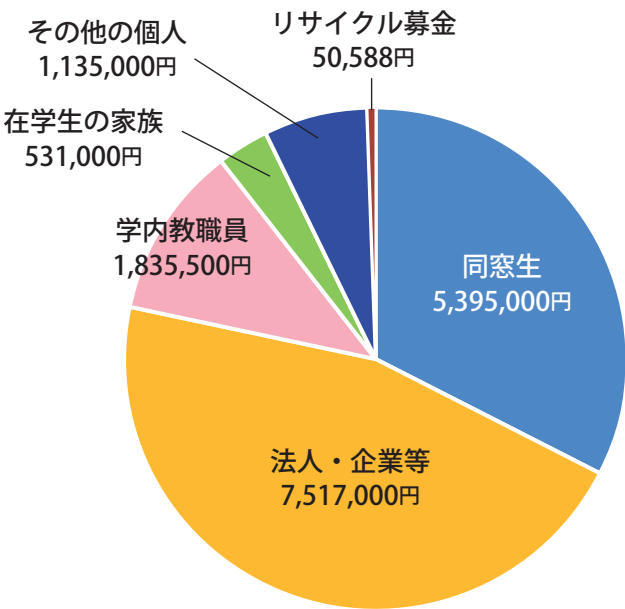


国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学長 長 澤 秀 行

帯広畜産大学基金受入状況

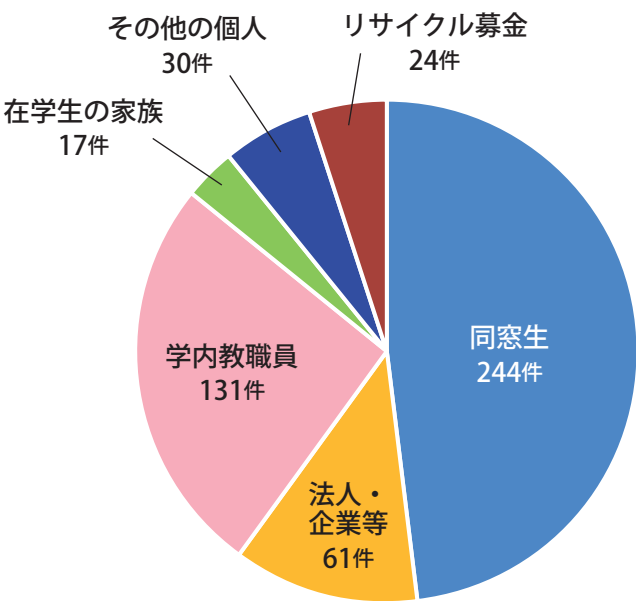
令和 8 年 3 月 31 日現在

令和 7 年度寄附金額



	令和 6 年度	令和 7 年度
同窓生	5,564,400円	5,395,000円
法人・企業等	7,668,027円	7,517,000円
学内教職員	1,856,000円	1,835,500円
在学生の家族	754,000円	531,000円
その他の個人	450,000円	1,135,000円
リサイクル募金	28,360円	50,588円
合 計	16,320,787円	16,464,088円

令和 7 年度寄附件数



	令和 6 年度	令和 7 年度
同窓生	283件	244件
法人・企業等	66件	61件
学内教職員	134件	131件
在学生の家族	25件	17件
その他の個人	23件	30件
リサイクル募金	23件	24件
合 計	554件	507件

令和7年度 収支決算

収入の部

(単位：千円)

区 分	件 数	金 額
法 人 ・ 企 業 等	61	7,517
同 窓 生	244	5,395
在 学 生 の 家 族	17	531
そ の 他 個 人	30	1,135
教 職 員	131	1,836
リサイクル募金	24	50
小 計	507	16,464
利 息 収 入 等	—	3,395
合 計	507	19,859

支出の部

(単位：千円)

項 目		金 額
学生修学支援事業基金		
授 業 料 等 免 除 事 業	授業料免除12名，入学料免除 4 名	2,735
学 資 給 付 事 業	学部生12名，大学院生 7 名	8,520
海外留学費用給付事業	令和 6 年度分 2 名（留学期間が令和 7 年度に引き続いたもの） 令和 7 年度短期留学 1 名	1,064
小 計		12,319
大学運営支援事業基金		
教育研究環境整備事業	馬生産教育施設整備等助成	18,000
社会貢献活動支援事業	畜大生による地域貢献活動 「ちくだいらんぷ」事業への支援	931
小 計		18,931
合 計		31,250

(単位：千円)

令和7年度現預金残高	期 首	341,047
	期 末	329,657

※ 教育研究環境の整備に関する事業（馬生産教育施設等助成）が令和5年度の事業計画から繰り越しとなり、令和7年度にまとめて執行したため、期首残高に比べて期末残高が減少した。

令和7年度大学基金奨学生との懇談会を開催

令和7年12月2日（火）に総合研究棟Ⅰ号館において、令和7年度帯広畜産大学基金奨学生との懇談会を開催しました。

帯広畜産大学基金では、学生修学支援事業として、経済的理由によって修学に困難がある学業成績が優秀な学生を対象に、学資給付事業や授業料等免除事業を実施しています。この懇談会は、同奨学生に大学基金の趣旨を理解していただき、有効に活用してもらうことを目的に開催しているものです。

はじめに、長澤学長から、「大学基金は、卒業生や教職員、企業の皆さまからのご支援によって成り立っています。修学支援には、皆さんの学びが少しでも豊かにしたいという思いが込められています。1人に支援できる額は大きくありませんが、皆さんの力になっていると感じていただければ嬉しく思います。感謝の気持ちを忘れず、これからの学業に役立ててください。」と挨拶を述べました。

懇談では、学生からそれぞれ近況報告があり、「実習や就職活動でアルバイトの時間が確保できない中、奨学金のおかげで研究と学業に専念できた。」「資格取得のための学習に集中することができた。」「親の仕送り負担を減らすことができた。感謝の気持ちをもって学び続けたい。」など、基金奨学金に対する感謝の言葉が寄せられました。

最後に、長澤学長は、「今日の懇談を機に、皆さんがこれからも前向きに学び続け、卒業後は社会で活躍してくれることを期待しています。将来、余裕ができたときには、今度は後輩を支える側になっていただけたら嬉しいです。有意義な学生生活を送ってください。」と激励の言葉がありました。

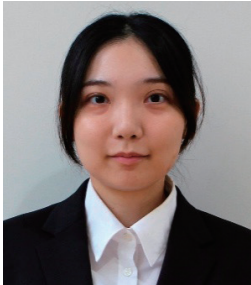


長澤学長（前列中央）、仙北谷副学長（後列右）、依藤事務部次長、長谷川事務部長（後列左から）と
基金奨学生

基金奨学生・授業料免除学生からの感謝の言葉

「学生生活で得た知識と経験を糧に、獣医師として社会に貢献していきたいと考えております。」

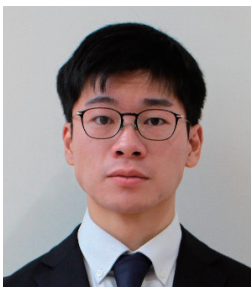
畜産学部共同獣医学課程 6年 新垣 光美



この度は、帯広畜産大学基金に御寄附を賜りました皆様、ならびに本奨学金に関わるすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。私は解剖学研究室に所属し、ニホンジカの尾部における特殊皮膚腺について研究しております。最終学年となり、卒業論文の作成に加えて就職活動等による出費が増える一方、アルバイトに充てる時間が限られ、経済的に厳しい状況にありました。そのような中、本奨学金のご支援を賜り、研究に専念することができ、論文投稿や国際学会での発表などにも積極的に取り組むことができました。今後も、皆様からの温かいご支援への感謝の気持ちを忘れることなく、学生生活で得た知識と経験を糧に、獣医師として社会に貢献していきたいと考えております。

「経済的な不安を抱えずに集中して研究に打ち込めているのはご寄付いただいている皆様、関係者の皆様のおかげに他なりません。」

畜産学部共同獣医学課程 5年 横山 航季



この度は帯広畜産大学基金奨学生として採用いただき、誠にありがとうございます。私は家畜病理学研究室に所属しており、様々な動物の解剖検査、組織学的検査を通して動物の病気について深く掘り下げて学んでおります。高校生の頃から生物の不思議さに興味を抱き、大学では生物の体内で起きていることを徹底的に学びたいと思っていました。現在その夢を叶えられていて毎日の研究活動が楽しくて仕方ありません。経済的な不安を抱えずに集中して研究に打ち込めているのはご寄付いただいている皆様、関係者の皆様のおかげに他なりません。本当にありがとうございます。これからも多くの方々にご支援いただいていることを忘れずに、毎日を大切に過ごして参ります。

「奨学金により、心身共に余裕を持った生活を送ることが出来ています。」

畜産学部共同獣医学課程 4年 有川 慶彦



この度は基金奨学生に採択いただき感謝申し上げます。多子家庭の長男で、生活に余裕はなく大変苦しいものでした。奨学金により、心身共に余裕を持った生活を送ることができています。私は現在野生動物学研究室に所属し、ネズミの背骨の比較形態に取り組んでいます。卒業研究に取り組むにあたり、すぐに答えの出ない問いに対し、じっくりと考え向き合うことができました。大学生活の中で最も貴重で大事な時間だったと考えています。木によく登るネズミとそうではないネズミとで、どのように背骨の形が違うのか。マニアックなテーマではありますが、「動物の生き方と形態の関係」という大きなテーマに挑むための礎となるデータが取れました。この度はご支援を賜り誠にありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

「奨学金をいただいたおかげでアルバイトの時間を少し減らし研究に費やす時間を増やすことができました。」

畜産学部畜産科学課程 4 年 鶴田菜々花



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただきありがとうございます。現在、私は野生動物を研究対象とする研究室に所属しており、エゾモモンガが巣をどのように発見するのかを視覚に注目して解明するという研究を行っています。調査では毎日のように林に入り、データの回収などを行っていました。林を歩き回った後にデータの処理を行い、生活の維持のために夜はアルバイトに行くという生活を繰り返していました。しかし、奨学金をいただいたおかげでアルバイトの時間を少し減らし研究に費やす時間を増やすことができました。今後も皆様からのご支援に感謝しつつ、研究に励んでまいります。この度は誠にありがとうございました。

「これまでご支援いただいた分、今後は農業分野の発展に貢献できるよう、より一層努力していきたいと考えております。」

畜産学部畜産科学課程 4 年 松永 実優



昨年度に引き続き、帯広畜産大学基金奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。本奨学金のおかげで、自分自身および両親の経済的負担が軽減され、精神的にも大きな支えとなりました。私は草地生態学研究室に所属し、特定外来生物に指定されているアレチウリの防除に関する研究に取り組んでまいりました。大学卒業後は地元での就職が決まっており、農業に携わる仕事に就く予定です。これまでご支援いただいた分、今後は農業分野の発展に貢献できるよう、より一層努力していきたいと考えております。

重ねてになりますが、2年間にわたり奨学生としてご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「これからも益々学業へ専心し、近い将来、地域社会へと必ず還元していきたいと考えております。」

畜産学部共同獣医学課程 3 年 齊藤 篤



この度は、帯広畜産大学基金による奨学金を授与していただき誠にありがとうございました。今回奨学金をいただいたことで、大学において学業に十分専念することができ、学びを深めることができました。いただいた奨学金は、教科書の購入や、外部での実習への参加に係る費用として助けとなり、獣医師を目指すにあたって基礎となる知識の定着に大いに役立った他、実習を通して、教科書や話に聞くだけであった獣医師の業務について実際に体験することで、理解を深め、自身の卒業後の進路を深く考える機会を得ることができました。このご恩については、これからも益々学業へ専心し、近い将来、地域社会へと必ず還元していきたいと考えております。重ねての御礼にはなりますが、皆様からの温かなお心遣いに心よりお礼を申し上げます。

「ご支援をいただいてからは学業に専念できる時間が増えたと感じております。」

畜産学部共同獣医学課程 3年 田中 謡子



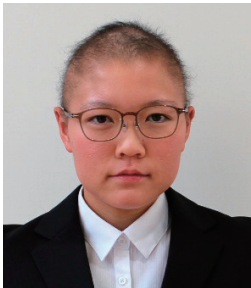
この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただきありがとうございます。夏季休業期間に、北海道の酪農の現場で大動物臨床の実習に参加いたしました。そこでは地域の酪農家の方々から信頼を寄せられ、懸命に命と向き合う獣医師の姿を目の当たりにしました。今後は、全国にも目を向け様々な現場に実習として訪れたいと考えております。

これまではアルバイトと学業との両立に追われ、試験前も思うように時間が取れないことが悩みでしたが、ご支援をいただいてからは学業に専念できる時間が増えたと感じております。

改めて、このような貴重なご支援をいただいたことに感謝申し上げます。将来、社会に貢献できる獣医師となれるよう、日々精進してまいります。

「経済的な負担が減ったことで、より学習に集中できるようになりました。」

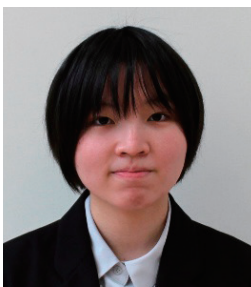
畜産学部共同獣医学課程 3年 渡邊 真央



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。入学当初から、産業動物獣医師を目指して日々の学びに励んでまいりました。学業の傍らでアルバイトをすることで学費や生活費を工面してきましたが、学年が上がり、学習や実習の時間が増え、アルバイトに割く時間の捻出に苦慮するようになりました。現在は本奨学金により経済的な負担が減ったことで、より学習に集中できるようになりました。現在は4つの畜産系アルバイトをしており、現場の実情を肌で感じています。その経験も含め、将来はこの広大な十勝の地で学んだ経験を活かして、農家の方々に信頼される獣医師になりたいと考えています。これからも、ご寄附をいただいた皆様への感謝を忘れずに勉学に励んでまいります。

「ご支援のおかげで経済面での心配が減り、学業および部活動に集中することができました。」

畜産学部畜産科学課程 3年 石田 萌笑



この度は、ご支援を賜り心よりお礼申し上げます。私の両親は福祉の仕事をしていて、低所得ではありますが私を大学に通わせてくれました。そんな中で母が昨年度をもって病気のため退職し、経済面で大きな不安を抱えていました。ご支援のおかげで経済面での心配が減り、学業および部活動に集中することができました。その結果第一希望である家畜育種の研究室に所属することができました。和牛のブランド化に寄与できるような研究をしたいと考えています。また、部活動においては女子主将として日々の稽古や遠征に励み、リーグ戦で仲間と共に大きな結果を残すことができました。今後もしばらくご支援いただいた感謝を忘れず、日々精進していきます。

「金銭面の他、時間の面でも余裕ができ、それらの活動に打ち込めるようになりました。」

畜産学部畜産科学課程3年 亀井 幹人



この度は、帯広畜産大学基金に御寄附頂いた皆様、及び全ての関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。私は、肉保蔵研究室に所属しており、肉質に関する研究テーマを探している最中です。大学では研究の他、アルバイトをする時間がとても多く、これから始まる就職活動や研究活動への不安がありましたが、本奨学金により、金銭面の他、時間の面でも余裕ができ、それらの活動に打ち込めるようになりました。これからは大学でしか学べない活動に全力を尽くし、人生を充実させていこうと思います。

「奨学金のおかげで経済的負担が軽減され、学業や業界研究により専念できるようになりました。」

畜産学部畜産科学課程3年 佐藤 陽向



この度は帯広畜産大学基金にご寄附くださいました皆様、並びに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。私は食品科学ユニットに所属し、食品の安全や品質に関する知識の習得を、食肉の製造や乳製品の加工実習などを通して励むとともに、将来の幅広い活躍を目指して会計学の勉強にも取り組んでおります。これまで学業と就職活動を両立する中で、安定した収入を得ることが難しい状況でしたが、本奨学金のおかげで経済的負担が軽減され、学業や業界研究により専念できるようになりました。このような環境を与えてくださった皆様に深く感謝申し上げるとともに、今後は社会に貢献できる人材となるべく、一層努力してまいります。

「これからもご支援いただいた皆様への感謝を忘れず、今後も有意義な学校がおくれるようにしていきたいと思います。」

畜産学部畜産科学課程1年 中村 結菜



この度は、帯広畜産大学基金に採用していただき、心より感謝申し上げます。畜産大学基金によるご支援のおかげで学費等の心配をすることなく、学業に専念することができました。私はこの一年間で農畜産に対する関心がより高くなりました。特に搾乳実習では決まった時間に行わなければいけないこと、乳を見て、病気がないか確認しなければいけないこと、牛舎の温度管理など想像を超える負担があることに気づくことが出来ました。現在はこのような気づきを活かし、実際の現場に活かせるような研究をしていきたいと考えています。これからもご支援いただいた皆様への感謝を忘れず、今後も有意義な学校がおくれるようにしていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

「奨学金のおかげで研究活動に、楽しく打ち込めていることを幸せに感じます。」

大学院畜産学研究科獣医学専攻2年 倉本 樹



帯広畜産大学基金の奨学金にご採用いただき、誠にありがとうございます。私は現在、犬に感染する寄生虫（フィラリア）が蚊に媒介される仕組みを遺伝的に解明することを目標に研究を行っています。寄生虫学において、寄生虫が宿主をどのような仕組みで選択しているのかを追究することは非常にロマンのある研究だと感じています。同一種の中でもフィラリアを媒介する能力は様々で、私にとってはとても魅力的な研究テーマです。本奨学金のおかげでそのような研究活動に、楽しく打ち込めていることを幸せに感じます。蚊の世話やプログラミング等いろいろなことを日々経験し、忙しい毎日ですが、研究の目標達成、学位取得に向けて今後も研鑽を積んでまいります。

「生物的防除機能を最大化する景観管理のあり方を明らかにし、持続可能な酪農システムに貢献したい。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻2年 中原 七海



私は「放牧地周辺の森林被覆率がコウモリ類の活動量に及ぼす影響」をテーマに研究しています。コウモリ類は家畜害虫の捕食者として重要な生態系サービスを担っていますが、放牧環境における彼らの空間利用には不明な点が多く残されています。そこで本研究では、バットディテクターを用いた音声調査とGIS解析を組み合わせ、周辺の森林被覆率がコウモリの活動量に与える影響をギルド別（森林性・開放地性）に検証しています。本研究により、生物的防除機能を最大化する景観管理のあり方を明らかにし、持続可能な酪農システムに貢献したいと考えています。

「金銭的な理由で学びを深めるのを諦めずにいられるのも、今回の採択があってこそだと深く実感しております。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 加藤 翔太



この度は帯広畜産大学基金に採択いただき、心より御礼申し上げます。私は食品科学ユニットの大学院生として主に ω -3系脂肪酸含有油の酸化安定性に資するとされるアイヌネギがエゴマ油にもたらす酸化指標の変化や油中への成分の移行についての研究を行っております。経済的な状況から、学業を安心して続けることができない現状でありましたが、今回の採択によって月々の余裕が生まれ、学業に専念できております。学部での研究に対して、金銭的な理由で学びを深めるのを諦めずにいられるのも、今回の採択があってこそだと深く実感しております。これからもそのことを忘れず、一層学業を深めてまいります。

最後になりますが、今回の採択いただいたことにつきまして、重ねてお礼申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

「大学基金にご寄付いただいた皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 田中 桜子



このたびは帯広畜産大学基金の奨学生に採用していただき、ありがとうございます。学部から農業環境工学ユニットで農業土木についての知識と技術を学んできました。現在は河川の水質調査・分析を通じて水環境保全的視点から農林地流域における土地利用の定量評価を目指しています。今年度から本奨学金をいただき、学業に専念することができました。農業の大規模化が進む北海道において、河川水質を指標とした周辺環境と調和する持続的な農業の発展を目指して、今後も社会に貢献できる能力と人間性を身につけていきたいと思います。大学基金にご寄付いただいた皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

「ご支援いただいた皆様への感謝を忘れることなく、今後も一層勉学に励んでまいります。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 土合 悠月



このたびはご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私は動物生体機能学研究室に所属し、慢性子宮内膜炎という婦人科疾患に関する研究に取り組んでおります。慢性子宮内膜炎は、不妊症や流産、着床不全との関連が指摘されているものの、その発症メカニズムには未解明な点が多く残されています。私はその病態解明の一助となることを目指し、慢性子宮内膜炎における月経周期の影響に着目して研究を進めております。大学院進学に伴い研究活動に専念する必要がある中、本奨学金により経済的な不安が軽減され、研究および学業に集中できております。ご支援いただいた皆様への感謝を忘れることなく、今後も一層勉学に励んでまいります。本当にありがとうございました。

「奨学金のおかげで、研究活動に集中して取り組むことができました。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 長野 辰徳



昨年に引き続き、帯広畜産大学基金奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。私は博士前期課程1年、家畜生産科学コース、家畜栄養学の研究室に所属しております。近年、反芻家畜から発生するメタンガスは温暖化の原因の1つとして問題視されており、畜産業にとっては向かい風となっています。そうした中、畜産業から発生するメタンガスの削減が課題であり、私の研究テーマはウシの反芻胃からメタンガス産生を抑制することでした。カギケノリという海藻を飼料に添加することで、メタンガスを抑制する効果がみられました。

本奨学金のおかげで、研究活動に集中して取り組むことができました。最後になりますが、ご支援いただいた方々に改めてお礼を申し上げます。

「本奨学金のおかげで、アルバイトの時間を減らし、その分自由に使える時間を確保することができました。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 細川 錦彦



ご寄付者をはじめ、基金事業に関わるすべての方に心より感謝申し上げます。私は現在、農業経済学コースに所属し、経済疫学を学んでおります。家畜疾病への対応を支える仕組みが十分に整っていない国・地域で家畜疾病が発生すると、農家は疾病のある家畜を報告しない、売却するなど自身の便益を最大化させる合理的な行動をとり、その結果、周囲に感染が拡大することで、経済的な損失がもたらされます。こうした背景のもと、モンゴルで蔓延している馬の性感染症であるコウ疫を対象に、農家に適切な行動を促す制度設計について研究しております。

本奨学金のおかげで、アルバイトの時間を減らし、その分自由に使える時間を確保することができました。どうすれば自分自身だけでなく、周囲の人の便益も最大化させられるかを常に考え、行動していきたいです。

「修学を断念せざるを得ないと諦めかけていた折、幸いにも授業料免除というご高配を賜りました。」

畜産学部共同獣医学課程3年 川端 真琴



帯広畜産大学基金にご寄付下さった皆様、ならびに関係者の皆様に、謹んで御礼申し上げます。私はロードキル動物を治療したいと思い、帯広畜産大学に入学しました。他分野での社会人経験を経ての再入学ですので専門が異なる獣医学の勉強は決して得意ではなく、授業についていけるようこれまで必死に勉強して参りました。しかし諸般の家庭事情により大学生活の継続が困難な状況となってしまいました。修学を断念せざるを得ないと諦めかけていた折、幸いにも授業料免除というご高配を賜りました。ご寄付下さった皆様の温かいご厚意と、事情をご理解下さった先生方ならびに職員の皆様方の親身なご対応によって学業継続が叶いました。ここに改めて深謝申し上げます。

「今後も社会人として現場に携わった経験を生かした研究を進め、その成果を社会に還元できるよう努力してまいります。」

大学院畜産学研究科獣医学専攻3年 望月奈那子



ご寄付を頂きました皆様に心より御礼申し上げます。現在、私は牛のウェアラブルセンサーによって計測される行動データを、疾病の早期発見や飼養環境の最適化に利用する研究に取り組んでおります。昨年度までは社会人大学院生として研究を進めてまいりましたが、今年度より退職し、より一層、研究活動に注力する決断をいたしました。そのような中で皆様の温かいご支援は大きな励みとなり、今期、研究成果をまとめた論文が国際学術誌に掲載されるまでに至りました。これもひとえに社会に出た後の人間にも、学び、研究を継続する機会をお与えいただいた皆様のお力添えによるものと感謝しております。今後も社会人として現場に携わった経験を生かした研究を進め、その成果を社会に還元できるよう努力してまいります。

「みなさまからのご支援を糧に、日本の安定したバレイショ供給に貢献する人材としてこれからも邁進してまいります。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻2年 江口 夏帆



この度は授業料免除をしていただきありがとうございました。私は現在、博士前期課程2年生としてバレイショの研究に取り組んでいます。令和7年度は畑でバレイショを栽培し生育中の植物を掘り上げ、イモが膨らむ過程を追跡する研究を行いました。現在、これまで冷涼地域とされていた十勝も酷暑地域となり、バレイショ生産には暑さという大敵が立ちはだかっています。私の研究は、イモの肥大や生育期間に関わる因子を探索し、「酷暑を迎える前に短期間で立派なイモをつける品種」の育成に貢献する研究です。みなさまからのご支援を糧に、日本の安定したバレイショ供給に貢献する人材としてこれからも邁進してまいります。

「多くの方々に、支えていただいたおかげで充実した学生生活を送れていることを忘れず、残りの学生生活も有意義なものにできるよう精進いたします。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻2年 佐々木有沙



この度は帯広畜産大学基金を通して、前期授業料の半額免除をしていただき、ありがとうございます。

親が退職し、私の大学院の学費は家計の大きな負担となることを不安に感じていたのですが、両親からは申請してくれるだけで嬉しいと言ってもらえました。私は、獣医臨床繁殖学研究室で、アザラシの唾液を用いて生殖内分泌を測定するための前処理の検討を行ってきました。

多くの方々に、支えていただいたおかげで充実した学生生活を送れていることを忘れず、残りの学生生活も有意義なものにできるよう精進いたします。

「経済的な不安が軽減され、免除分を留学費用に充てることができました。」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻1年 荻木 優里



この度は、帯広畜産大学基金奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございました。私は2025年春より帯広畜産大学の博士課程前期に進学し、現在、西アジアの遊牧民である「ベドウィン」の食文化に関する研究に取り組んでおります。近年ベドウィンの食生活は大きく変化しており、家畜と共に季節移動を行い、乳製品や穀物を中心としていた食生活は、定住化の進行に伴い野菜や肉、さらには米を取り入れる形へと変容してきました。私は2026年より1年間、海外において国際研究所に所属し現地調査を行う予定です。留学にあたり多くの費用が必要となる中、この度のご採用により経済的な不安が軽減され、免除分を留学費用に充てることができました。今後も国際的に活躍できる研究者となれるよう一層精進してまいります。改めまして、この度のご支援に心より感謝申し上げます。

「日々の診療経験を自身の研究に結びつけ、より質の高い獣医療の実践を目指す環境が整いました。」

大学院畜産学研究科獣医学専攻 1 年 山本めぐみ



この度は授業料免除のご支援を賜り、誠にありがとうございます。私は現在畜産学獣医学専攻に在籍し、獣医師として診療に携わりながら研究および学業に取り組んでおります。本制度により経済的負担が軽減されたことで、日々の診療経験を自身の研究に結びつけ、より質の高い獣医療の実践を目指す環境が整いました。将来は、大学院での研究成果を臨床現場に応用し、社会に貢献できる獣医師となることを目標としております。

今回のご支援に深く感謝するとともに、得られた知識と経験を獣医療の発展や社会への還元につげられるよう、今後も真摯に研鑽を重ねてまいります。この度は本当にありがとうございました。

「皆様のご厚意が、私の研究を前進させる大きな原動力となっています。」

大学院畜産学研究科獣医学専攻 1 年 劉 経緯



帯広畜産大学基金にご支援くださった会員の皆様ならびにご寄附者の皆様に、心より御礼申し上げます。皆様のご支援のおかげで、日本の大学院において教育を受ける貴重な機会を得ることができました。私は現在、西川義文教授の研究室に所属し、トキソプラズマに対する新規治療法の開発研究に加え、トキソプラズマ感染による宿主ハイジャック機構の解明、ならびにトキソプラズマのミトコンドリア内膜タンパク質の分子機能解析に関する基礎研究に取り組んでおります。今後もトキソプラズマ研究に邁進し、より有効な治療法の確立およびトキソプラズマのミトコンドリア分子機構の解明に貢献できるよう努力してまいります。改めまして、ご支援くださった会員の皆様ならびにご寄附者の皆様に深く感謝申し上げます。皆様のご厚意が、私の研究を前進させる大きな原動力となっています。

「基金の助成により研究活動に注力できること、大変感謝しております。」

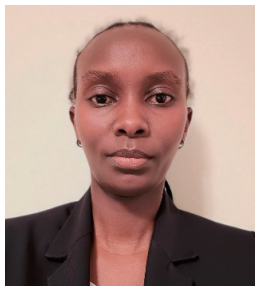
大学院畜産学研究科獣医学専攻 1 年 齋藤 江連



馬に関わる研究に携わりたいという思いから、馬産業が盛んな十勝に所在する本学の博士課程に進学することを決めました。現在、十勝ばんえい競馬で活躍する重種馬特有の内分泌疾患の調査およびその診断と治療に関する研究を実施しています。重種馬では、肥満に関連したメタボリックシンドローム（EMS）、蹄葉炎、繁殖障害などの発症率が高いことが知られており、馬のQOL、生産性、競争能力を著しく低下させます。本研究では重種馬におけるEMSの早期発見、診断、治療方法の検討を目的としています。基金の助成により研究活動に注力できること、大変感謝しております。馬産業の課題を解決できる成果を出せるよう、日々研究活動に邁進いたします。

「This generous support has significantly eased my financial burden and allowed me to focus more on my research work.」

大学院畜産学研究科獣医学専攻 1 年 NGIGI Noel Muthoni Mumbi



I would like to express my sincere appreciation to Obihiro University of Agriculture and Veterinary medicine for awarding me a tuition waiver. This invaluable support has had a profound impact on both my academic journey and personal development. This generous support has significantly eased my financial burden and allowed me to focus more on my research work that will continually play a big part in my future professional development.

Studying in this university has been an enriching experience characterized by academic excellence, strong mentorship, and access to advanced research facilities. The tuition waiver represents not only financial assistance but also the university's trust in my academic abilities and research potential. This encouragement has strengthened my commitment to maintaining high academic standards and contributing responsibly to the university's research mission.

My current research focuses on the establishment of an in vitro culture system for *Theileria orientalis*, a tick-borne protozoan parasite of significant importance in bovine health. *T. orientalis* infections are associated with anemia, reduced productivity, and economic losses in the cattle industry. However, progress in understanding its biology and pathogenic mechanisms has been limited due to the absence of an in vitro culture model. Therefore, the objective of my research is to develop and optimize such a culture system and to explore its applications in studying parasite development, host-parasite interactions, and preliminary drug screening. The successful establishment of this system would provide a valuable platform for future research and contribute to improved control strategies for theileriosis.

I am deeply grateful for the university's generous support, which has allowed me to pursue this research under an excellent academic and research framework. I am committed to utilizing this opportunity to produce meaningful scientific contributions to the university and the world at large.

(和訳)

授業料免除の恩恵を受け、心より感謝申し上げます。この貴重なご支援は、私の学業と人間的成長の両面において、計り知れないほど大きな影響を与えてくださいました。このご支援のおかげで、経済的な負担が大幅に軽減され、将来のキャリア形成にもつながる研究に専念することができました。大学での学びは、卓越した学術水準、充実した指導体制、そして先進的な研究設備を活用できる環境など、非常に豊かな経験となりました。授業料免除は、経済的な支援であるだけでなく、私の学力と研究能力に対する大学の信頼の証でもあります。この励ましは、高い学業水準を維持し、大学の研究使命に責任を持って貢献していくという私の決意をさらに強固なものにしてくれました。

現在、私は牛の健康にとって重要なダニ媒介性原虫寄生虫であるタイレリア・オリエンタリスのin vitro培養系の構築に取り組んでいます。タイレリア・オリエンタリス感染症は、貧血、生産性の低下、そして畜産業における経済的損失と関連しています。しかしながら、in vitro培養モデルが存在しないため、その生物学的特性や病原性メカニズムの解明はこれまで限定的でした。このような課題を踏まえ、本研究ではタイレリア・オリエンタリスのin vitro培養システムの開発・最適化を進めるとともに、寄生虫の発育、宿主と寄生虫の相互作用、薬剤スクリーニングの予備研究への応用を目指しています。このシステムの確立に成功すれば、今後の研究のための貴重な基盤となり、タイレリア症の防除戦略の改善に貢献できるでしょう。

優れた学術・研究環境のもとで本研究に取り組む機会を与えてくださった大学のご支援に深く感謝いたします。この機会を活かし、大学および世界全体に意義のある科学的貢献をできるよう尽力してまいります。

「This financial assistance has significantly reduced my economic burden and has enabled me to focus more effectively on my academic and research activities.」

大学院畜産学研究科畜産科学専攻 1 年 GELAGIL Demsew Bekele



I would like to express my sincere and heartfelt gratitude to Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine for granting me an enrolment fee and tuition fee waiver through the OUAVM Fund. I am deeply thankful to the generous donors and supporting members whose valuable contributions have made this financial support possible. I am currently a PhD student in the field of Animal Science and Agriculture, pursuing my doctoral studies in the soil science laboratory. As a newly admitted student to the university, adapting to a new academic environment while managing personal and financial responsibilities has been challenging. This financial assistance has significantly reduced my economic burden and has enabled me to focus more effectively on my academic and research activities. In addition, I have family members who depend on my income, making financial stability particularly important for me. Receiving both the enrolment fee and tuition fee waiver during this semester has been instrumental in alleviating financial difficulties and allowing me to concentrate fully on my studies.

My doctoral research focus on identifying key yield and quality limiting factors in Japanese potato production for processing. With the continued support of my professor and the university, I will evaluate soil conditions prior to planting, examine the effects of appropriate fertilization on soil health, and investigate how nutrient imbalances may lead to yield penalties. The ultimate goal of this research is to develop a practical soil and fertilizer management strategy that improves productivity, consistency, and processing suitability for Japan's potato industry.

With the continued guidance of my professor and the support of the university, I am highly motivated to pursue my research diligently and contribute meaningful outcomes to sustainable agricultural production. I sincerely hope that the university will continue to consider my current situation and kindly provide tuition fee support in future semesters. Once again, I extend my deepest appreciation for this invaluable support and encouragement.

(和訳)

この度、入学金および授業料の免除を賜り、心より感謝申し上げます。この支援を可能にしてくださった寄付者の皆様、そして支援者の皆様の貴重なご貢献に深く感謝いたします。

私は現在、土壌科学研究室で博士研究を行っています。大学に入学したばかりで、新しい環境に適応しながら、生活面や経済面でのさまざまな課題と向き合うことは容易ではありませんでした。今回の支援は、私の経済的負担を軽減し、学業と研究活動に集中することを可能にしてくれました。

私の博士研究は、日本の加工用ジャガイモ生産における収量と品質を制限する主要な要因を特定することに焦点を当てています。教員の皆さまと大学の継続的なご支援のもと、植え付け前の土壌状態の評価、適切な施肥が土壌の健康に及ぼす影響の検証、そして栄養バランスの崩れが収量低下につながるメカニズムの解明に取り組んでまいります。本研究の最終目標は、日本のジャガイモ産業における生産性、品質の均一性、そして加工適性を向上させるため、実践的な土壌・肥料管理戦略を開発することです。

教員の皆様のご指導と大学のご支援のおかげで、私は研究に真摯に取り組み、持続可能な農業生産に貢献できる成果を生み出せるよう、強い意欲を持って取り組んでまいります。この貴重なご支援と励ましに、改めて深く感謝申し上げます。

海外留学費用給付事業

「畜大生グローバルチャレンジ」について

海外留学を通じて国際感覚を養い、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目的に、短期（15日以上3カ月以内）および長期（3カ月以上1年以内）で留学する学生を支援しています。

畜産学部畜産科学課程4年 平野 愛

留学先国：台湾

留学期間：2024年9月1日～2025年6月30日（長期・10カ月）

この度は、貴重なご支援をいただき、誠にありがとうございました。皆さまの温かいご厚意のおかげで、海外での学びの機会を得ることができました。

今回、交換留学生として国立屏東科技大学へ留学し、最も成長したと感じたのは、困難な状況下でも前向きに行動しようとする姿勢です。到着して約1ヶ月が過ぎ、ようやく生活に慣れてきた頃、台風の影響で寮が停電・断水となり、情報も入らず、いつ復旧するのかも分からない不安な状況に置かれました。英語でのやり取りもうまくできず、孤独感を強く感じたことを覚えています。そんな中で印象的だったのは、他の留学生たちが、その不便さすら楽しむように助け合いながら生活していた姿でした。どんな状況であっても柔軟に受け入れ、前向きに行動する力の大切さを学び、少しずつ自分の中にも余裕が生まれました。この経験は、今後異なる文化や予測できない場面に出会ったときにも、自分を支えてくれる価値ある学びとなりました。



英語サークルの活動の様子



国立屏東科技大学の様子

畜産科学専攻博士前期課程1年 北久保 希愛

留学先国：オーストラリア

留学期間：2025年3月20日～2025年12月17日（長期・9カ月）

この度は、留学の機会をご支援いただき、心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、オーストラリアにて環境教育の実践を学ぶ貴重な経験を得ることができました。

ブリスベン南半球最大級の自治体の一つともいわれており、そのような影響力の大きい自治体が運営する環境教育センターで活動できたことは、私にとって大変貴重な学びの機会となりました。現地では、自然体験イベントやガイドウォークなど様々な活動に関わる中で、人と自然をつなぐ環境教育の重要性を実感しました。また、滞在の最後には、日本とオーストラリアを行き来する渡り鳥をテーマに、日本語によるガイドウォークを自ら企画・実施する機会を得ることができました。

自分自身の背景や視点を活かしながら自然の価値を伝える経験は、私にとって大きな学びと自信につながりました。この留学で得た経験を今後の研究や実践に活かし、人と自然のつながりを深める環境教育に貢献していきたいと考えています。



環境教育センターの皆さんと



ウォンバット(在来動物)と

畜産学部共同獣医学課程 5年 八十川 怜

留学先国：スイス

留学期間：2026年1月12日～2026年2月20日（短期・1カ月）

現在私は家禽に致死性を示すサルモネラの病原性に関する研究に取り組んでおります。細菌感染症を深く理解するためには、異なる病原機序を持つ細菌を学ぶ必要が不可欠であると考え、スイスのベルン大学病理学研究室にてウェルシュ菌の致死毒素に関係する研究に参加してまいりました。スイスは世界で最も物価が高い国の一つであり、加えて昨今の円安の影響も伴い、奨学金のご支援は留学を行う上で大変重要な支えとなりました。

6週間の留学のうち最後の1週間は病理解剖の方に参加しました。そこでは、毎日一人1検体以上を自身の手で解剖し、肉眼的解剖所見から診断や鑑別診断を英語で説明することが求められました。私自身普段の研究で使うような英単語については理解し話すことができるものの、獣医療的な病名や解剖学的な用語についての知識が乏しく、即座に日本語から英語へと変換することができず歯がゆい場面が多々ありました。そのため毎回での不明点を英語で学びなおし、自身の口で説明できるように努力した経験は私にとって貴重なものとなりました。加えて私の拙い英語を辛抱強く理解してくれた周囲の人々の温かさに触れ、人間的に成長しようとして今まで以上に強く感じる契機となりました。

今後は、本留学での経験を活かし、今後も研究を進め、国内外問わず社会に貢献できるように勉学に励んで参ります。この度のご支援に、重ねて感謝申し上げます。



ラボメンバーとのお別れ会



ラクレットパーティ(歓迎会)

令和7年度ちくだいらんぷ事業について

事業を通じて学生の地域志向を育み、卒業後も十勝の応援団として活躍する人材づくりを目的に、学生が中心となり、帯広・十勝の活性化を図る「ちくだいらんぷ事業」の取組を支援しました。「文化・スポーツコース」「地方創成・地域活性化コース」「おびひろ動物園活性化コース」の3コースで企画を募集し、採択された12件の事業が活動を展開しました。

また、事業報告会を開催し、各団体が活動成果や課題を共有することで、今後の地域貢献活動への学びを深めました。

◇文化・スポーツコース（愛称：「みんなのちくだい。」）

一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団との連携事業で、文化活動やスポーツ活動を通じた畜大生自身による地域貢献活動により、地域の人たちと交流を深められる体験型のコース

団体名	事業名	実施日
陸上競技部	走る！跳ぶ！投げる！はじめての陸上教室2025	令和7年 7月21日 令和7年10月18日
カーリング部	親子でチャレンジ！初めてのカーリング	令和7年11月16日
アメリカンフットボール部	アメフトふれあい体験～フラッグフットボールをしよう！～	令和7年11月16日
畜大いきものまっぷ製作グループ	はじめてのちくだい自然探検	令和7年10月25日 令和7年11月15日
体操部	体操部の「やってみよう！パルクール」	令和7年12月21日

（採択事業5件）

走る！跳ぶ！投げる！はじめての陸上教室2025

陸上競技部は、「走る」「跳ぶ」「投げる」の3種目を体験できる陸上教室を実施しました。ミニハードルや踏み台を用いた走り方の練習、プライオボックスを活用した跳躍ドリル、走り幅跳び、ジャベリックボール投げを実施しました。



親子でチャレンジ！初めてのカーリング

地域の方々にカーリングの体験を通じて、魅力と楽しさを伝え、小学生がカーリングを始めるきっかけ作りとなることを目的としています。



アメフトふれあい体験～フラッグフットボールをしよう！～

地域の子供たちにアメリカンフットボールやフラッグフットボールを知ってもらうことを目的として、小学生を対象にフラッグフットボールを実施しました。



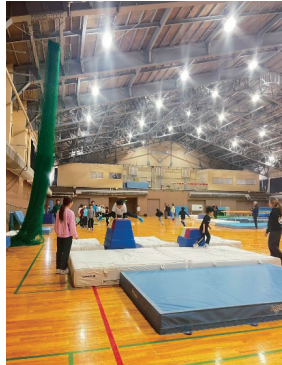
はじめてのちくだい自然探検

地域子どもたちに畜大構内の豊かな自然や生き物の魅力を知ってもらうことで、自然保護について考えるきっかけにすることを目的として、生き物や植物の観察を交えた自然散策を実施しました。



体操部の「やってみよう！パルクール」

地域の方々がこれまでやったことのない運動をするきっかけ作りや、新しいことに挑戦してもらうことを目的として、パルクールを実施しました。



◇おびひろ動物園活性化コース（愛称：「ずーぷろ」）

おびひろ動物園との連携事業で、おびひろ動物園を今よりもさらに魅力的にするために、畜大生が自主的に企画するコース

団体名	事業名	実施日
ZooFul	住みたい”すみか”はどのすみか？～動物たちの個性豊かなおうちを知ろう！～	令和7年10月18日・19日
うしぶ。	おびひろ動物園 シールラリー	令和7年10月25日・26日
畜大コンポストさーくる	動物と共に堆肥化を学ぼう！	令和7年10月 4日・ 5日

（採択事業3件）

住みたい”すみか”はどのすみか？～動物たちの個性豊かなおうちを知ろう！～

動物たちの生態や暮らす環境について理解を深めてもらうことを目的として、動物ごとの特徴に合わせた「すみか」に着目した体験企画を実施しました。



おびひろ動物園 シールラリー

おびひろ動物園をより広く楽しんでもらうことを目的として、園内を巡りながらクイズに挑戦するシールラリーを実施しました。



動物と共に堆肥化を学ぼう！

動物への餌やり体験を通して、餌となる野菜の生産過程や堆肥化の仕組みについて学んでいただきました。



◇地方創成・地域活性化コース（愛称：「とかチャレ」）

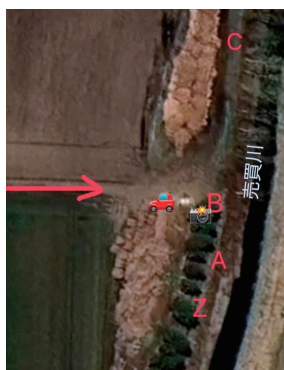
帯広・十勝の地域課題の解決等、地域の活性化につながる企画として、畜大生が自主的に実施する企画コース

団体名	事業名	実施日
とことこあるこう	十勝アライグマバスターズ2	令和7年6月10日～8月23日
ゼニガタアザラシ研究グループ	ゼニガタアザラシ×地域共生のミライ会議	令和7年12月21日
あんこ三姉妹	十勝の特産品である小豆の魅力を伝えよう!	令和7年8月9日・10日・23日 令和7年9月20日 令和7年10月11日・12日 令和7年11月16日
蟲研究会	畜大生と虫を取って昆虫標本をつくろう!!	令和7年8月9日

（採択事業4件）

十勝アライグマバスターズ2

十勝地域におけるアライグマによる被害の軽減を目的として、アライグマの捕獲・駆除活動を実施しました。農作物被害や病原体の拡散防止に取り組むとともに、生態系への影響や被害の実態を調査し、外来生物問題への理解と関心を深める啓発活動を行いました。



ゼニガタアザラシ×地域共生のミライ会議

ゼニガタアザラシと地域社会との関わりについて理解を深めることを目的として、現状や課題を共有しながら意見交換を行うシンポジウムや講演会を実施しました



十勝の特産品である小豆の魅力を伝えよう！

十勝の小豆の魅力をまだ知らない十勝の若者にその魅力を発信し、より身近に感じてもらうことを目的に、小豆を使った新たなスイーツの開発に取り組みました。



畜大生と虫を取って昆虫標本をつくろう！！

昆虫の採集や観察、標本作製を通して、昆虫や自然環境への興味・関心を深めてもらうことを目的に、採集した昆虫を標本にする企画を実施しました。



ちくだいホームカミングデー2025を開催

令和7年10月11日（土）に「ちくだいホームカミングデー2025」を開催しました。「ちくだいホームカミングデー」は、本学の卒業生、修了生及び元教職員の皆様に、再び本学に足をお運びいただき、同窓生や在学生、教職員との交流を深めていただくために開催しているイベントで、帯広畜産大学同窓会・畜大祭実行委員会との共催で開催しました。当日は全国各地から、150名を超える参加者にお集まりいただきました。



多くの卒業生・在学生・教職員が集ったホームカミングデー2025



肩を組み、声をそろえて逍遙歌を合唱

寄 附 者 ご 芳 名

[企業・団体等] (63団体)

(五十音順・敬称略)

【100万円】

敷島製パン(株)

【50万円】

日本甜菜製糖(株)

【30万円】

十勝農業協同組合連合会 社会医療法人北斗 宮坂建設工業(株)

【25万円】

帯広信用金庫

【20万円】

(株)十勝毎日新聞社 (株)ホクチク 宮本機械(株)
よつ葉乳業(株)

【10万円】

(株)ズコーシャ 内外施設工業(株) (株)北海道フーズ

【5万円】

合同会社エイル 大高酵素(株) 帯広商工会議所
十勝信用組合 十勝農協連畜大同窓会 北王コンサルタント(株)
宮本商産(株) (有)ミュウ動物病院

【3万円】

税理士法人 竹川会計事務所 北成建材工業(株)

【2万円】

美瑛町農業協同組合

【1万円】

(株)小澤建設 (株)北口電器商会 大昭電気工業(株)

【7千円】

酪農畜産乳業関連・帯広畜産大学有志同窓会

【企業名・団体名のみ掲載希望の寄附者様】

(五十音順・敬称略)

(株)アクト	(株)伊豆倉組	大槻理化学(株)
帯広市川西農業協同組合	帯広地方卸売市場(株)	(株)笹原商産
全国酪農業協同組合連合会	(株)曾我	(株)ダイイチ
大樹町農業協同組合	一般社団法人 タカナシ食と人を育む会	(株)土谷特殊農機具製作所
東洋農機(株)	十勝清水町農業協同組合	十勝地区農業協同組合長会
バイオマスリサーチ(株)	ハラデンキ(株)	北慎建設工業(株)
(株)北海道新聞社帯広支社	北海道電力ネットワーク(株)	北海道農業協同組合中央会帯広支所
北海道富士平工業(株)	三菱商事(株)北海道支社	(株)山本忠信商店
(株)柳月	Y S ヤマショウ(株)	

不掲載希望等 9 団体

〔個人・学外〕 (227名)

(五十音順・敬称略)

【100万円】

林 克昌

【25万円】

吉田 武徳

【20万円】

斉藤 篤

【10万円】

今田 忠夫 加藤 道博 飛松 一樹 村上 豊 諸角 元二

【6万円】

横尾 博

【5万1千846円】

山本 哲也

【5万円】

鴨志田光栄 出口 宣夫 三浦 輝雄 山中 健司

【3万円～3万9千円】

池田 奉昭 名和 靖史 長谷川 光 安田 昌英

【2万円】

伊織 嬌子
澤田 拓士
丸山 純孝

石川 諭史
辻 修
八重樫伸男

市村 豊
細川 誠
横沢 冲彦

印牧 馨
松田 孝志

菅野 典雄
松田 尚文

【1万円】

荒木 貞一
大宮 良文
柴田 雄二
高橋 英三
深沢 晃

乾 英二
勝俣 和悦
下道 宏作
高橋 次夫
宮本 道男

岩崎 繁基
亀尾 勇人
末広 彰
長南 隆夫
矢木沢徳弘

宇草 哲夫
齐藤 政光
関水 朋大
早坂貴代史
和田 明

海村 正義
佐藤 基佳
相馬 要
林 俊克

【6千円】

竹内 優貴

【5千円】

大西 博

芹澤 駿治

矢島 大彰

【氏名のみ掲載希望の寄附者様】

(五十音順・敬称略)

相場 武
石田 正人
岩波 道生
大竹 敏恵
風間 幹生
川田 泰正
小林 幹子
塩崎 弘
白澤 昌彦
関口 雄介
高畠 孝一
田中 静幸
西村 達弥
蜂谷 進
星野 敏伸
三原 正士
村上 洋子
山崎 孝雄
米山 修

浅倉 幾美
伊藤 謙二
上田 広之
大友 秀文
柏村 文郎
川村 雅貴
小山 洋
島 哲哉
白戸 綾子
園田 眞
高松 彰義
田中 秀明
似鳥 英司
久野 紀子
舛川 正晃
宮崎 達也
百田 周平
山下 博司
和田 芳昭

有沢 道朗
伊藤 隆範
内海真奈美
奥村 隆雄
加藤 徹
神林 昌也
齐藤 正明
島貫 正道
新酒 英暁
高木 恵子
田川 発
中川 欣三
野川 浩道
藤井 啓
益田 邦郎
宮原 達史
森田 芳治
山保 浩之
渡邊 睦実

有田 大作
稲垣 和雄
大内 聖和
小田 昌秀
門屋 充郎
久住 正博
酒井 國雄
清水 昭雄
砂川 敏文
高橋 良平
竹迫 紘
南部 実
野本 優二
藤村 裕一
増本多喜子
三好 雅史
森本 英敬
横山 誠人

石川 智之
猪子 敏夫
大芝 英明
影山 晴久
川崎 寧
久保 長旦
佐村 久夫
清水夫美子
住友 寛
高橋 亮也
竹迫 真樹
西田 讓
羽柴 清志
朴 柱享
密本 眞弓
御代田美一
矢島 裕一
吉田 定弘

不掲載希望等 75名

【個人・学内】（118名）

（五十音順・敬称略）

【12万円】

井上 昇

【10万円】

長澤 秀行

【6万6千円】

大坪 秀典

【4万1千500円】

手塚 雅文

【3万円】

佐藤 健一 福島 道広

【2万円】

口田 圭吾 南保 泰雄 宗岡 寿美 村西 由紀

【1万円～1万6千円】

大林 姿子	岡田 繁	小田 賢一	笠原 誠人	嘉屋 元博
川島 千帆	川村 正洋	草場 信之	窪田さと子	西田 慎吾
福田 健二	三宅 俊輔	村上 徹	森 正彦	和田 大輔

【～9千円】

生田 和哉	石割 厚希	押田 龍夫	海田 芳隆	加藤 豊
坂本さや香	杉田帆奈美	田中 秀一	津野 由希	中島 司典
花田 正明	堀田 努	矢吹衣理奈	山口 将	若木 海理

【氏名のみ掲載希望の寄附者様】

（五十音順・敬称略）

相内 大吾	麻田 正仁	穴澤 清幸	有安 友美	石井 利明
大川晶由里	大西 一光	岡村 雅史	小川 晴子	春日 純
茅野 光範	木村 賢人	後藤 達彦	小松 勇介	齋藤 謙一
斉藤 準	佐々木基樹	佐野 忠士	高橋 良江	田上 正明
武田 洋平	武山 暁子	田中 秀樺	谷 昌幸	千葉三都希
塚本 孝志	得字 圭彦	西田 武弘	早坂 美穂	東 陽介
松井 基純	松本高太郎	松元 志帆	村田浩一郎	吉野 綾華
渡辺 純				

不掲載希望等 42名

感謝状の贈呈

このたび、大学基金に対して多大なご支援をいただいた三菱商事株式会社北海道支社、西田 譲氏並びに高島 孝一氏に対し、長澤 秀行学長より感謝状を贈呈しました。

この感謝状は、大学基金で定める「謝意表明の基本方針」に基づき、大学基金が創設された平成22年4月以降、企業・団体等にあっては累計100万円以上、個人にあっては累計50万円以上のご寄附をいただいた方に対して贈呈するものです。



三菱商事株式会社 北海道支社
糸川 裕樹支社長と長澤学長（右から）



西田 譲氏と長澤学長（右から）



高島 孝一氏への贈呈

帯広畜産大学基金運営委員会委員名簿

構成員 12名（任期2年：令和8年4月1日～令和10年3月31日）

	職 名	氏 名
委員長	帯広畜産大学長	長澤 秀行
委 員	宮坂建設工業(株) 代表取締役社長	宮坂 寿文
	日本甜菜製糖(株) 品質保証部長	堀 秀幸
	よつ葉乳業(株) 取締役執行役員 十勝主管工場長	船戸 健
	帯広商工会議所 会頭	川田 章博
	帯広信用金庫 理事長	中田 真光
	(株)十勝毎日新聞社 代表取締役社長	林 浩史
	特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター 理事長	門屋 充郎
	帯広畜産大学同窓会 会長	三津原 勝
	帯広畜産大学 副学長	古林与志安
	帯広畜産大学 副学長	岩本 博幸
	帯広畜産大学 副学長	川島 千帆

帯広畜産大学基金規程

平成22年1月21日規程第1号

制 定

改正 平成28年7月29日規程第30号 平成29年3月28日規程第15号

令和4年4月1日畜大規程第1号 令和7年6月18日畜大規程第2号

(設 置)

第1条 帯広畜産大学（以下「本学」という。）に、経済的理由により修学に困難がある学生等を対象とした修学環境を支援するための基金として学生修学支援事業基金を、また大学運営及び社会貢献に関する活動を支援するための基金として大学運営支援事業基金を置く。

(学生修学支援事業基金)

第2条 学生修学支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。

- (1) 授業料、入学料又は寄宿料の免除等の経済的負担の軽減を図る事業
- (2) 学費を給付する事業
- (3) 海外留学費用を給付する事業
- (4) 教育研究業務に従事させるための雇用経費を支給する事業

2 学生修学支援事業基金は、前項に定める事業を寄附目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(大学運営支援事業基金)

第3条 大学運営支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。ただし、前条第1項に掲げる事業を除く。

- (1) 教育研究環境の整備に関する事業
- (2) 社会貢献活動の支援に関する事業
- (3) 産業界又は同窓生との連携に関する事業
- (4) その他本学運営のために必要な事業

2 大学運営支援事業基金は、前項に定める事業を目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(基金の管理)

第4条 学生修学支援事業基金及び大学運営支援事業基金（以下「各基金」という。）は、この規程及びこの規程に基づく定めによるほか、国立大学法人北海道国立大学機構寄附金取扱規程（令和4年度機構規程第88号）により寄附の管理を行うものとする。

(基金の使途)

第5条 学長は、各基金の寄附の受入の決定にあたり、寄附者があらかじめ使途を特定しない場合においては、これを特定しなければならない。

2 各基金に対して納付された寄附金の使途は、変更してはならない。

(基金の運営)

第6条 各基金はそれぞれ区分して経理することとし、その運営は、各基金毎に受け入れる寄附及びその果実をもって充てる。

2 各基金の運営に関する重要事項の審議は、帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）が行う。

3 委員会の組織運営等については、別に定める。

(賛助会員)

第7条 各基金の目的に賛同する者は、賛助会員となることができる。

2 賛助会員及び賛助会費に関し必要な事項は、別に定める。

(事業年度)

第8条 各基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(庶務)

第9条 各基金の庶務は、関係課等の協力を得て、企画総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、各基金の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附 則（平成28年7月29日規程第30号）

この規程は、平成28年7月29日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成29年3月28日規程第15号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日畜大規程第1号）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和7年6月18日畜大規程第2号）

この規程は、令和7年6月18日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

帯広畜産大学基金賛助会員規程

平成22年1月21日規程第2号

制 定

改正 平成28年7月29日規程第31号 令和4年4月1日畜大規程第1号

(趣 旨)

第1条 帯広畜産大学基金規程（平成22年規程第1号）第7条第2項の規定に基づき、帯広畜産大学基金（以下「基金」という。）の事業活動をより充実したものとするため、この規程を定める。

(賛助会員)

第2条 賛助会員は、基金の目的に賛同し、継続的に事業に協力するものであって、この規程に定める賛助会費を納付した者とする。

(賛助会費)

第3条 賛助会費の額は、次のとおりとし、1口以上を申し込むことができる。

- (1) 個人会員の場合は、1口年額5千円とする。ただし、教職員については、1口月額500円として申し込むことができる。
- (2) 法人・団体会員の場合は、1口年額1万円とする。

(賛助会員の脱会等)

第4条 賛助会員が賛助会費を納付しない時は、脱会したものとみなす。

(賛助会費納付金の運用)

第5条 賛助会員から納付された賛助会費は、基金の運用財産収入又は基本財産収入として経理し、運用する。

附 則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附 則（平成28年7月29日規程第31号）

この規程は、平成28年7月29日から施行する。

附 則（令和4年4月1日畜大規程第1号）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

帯広畜産大学基金運営委員会細則

平成22年1月21日細則第1号
制 定

改正 平成24年2月16日細則第12号 平成27年6月2日細則第7号
平成28年5月24日細則第4号 令和4年4月1日畜大細則第1号
令和7年6月18日畜大細則第2号

(趣 旨)

第1条 この細則は、帯広畜産大学基金規程（平成22年規程第1号）第6条第3項の規定に基づき、帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、帯広畜産大学基金（以下「基金」という。）の管理及び運営に関する次に掲げる事項について審議を行う。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 基金の予算及び決算に関する事項
- (3) 寄附の受け入れ及びその運用に関する事項
- (4) 寄附者への謝意表明の基本方針に関する事項
- (5) その他基金の管理及び運営に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長のうち、学長が指名する者
- (3) 帯広畜産大学の職員以外で大学に関し広くかつ高い識見を有するもののうちから、学長が指名する者 若干人
- (4) 帯広畜産大学同窓会役員の中から学長が指名する者 若干人
- (5) その他学長が必要と認めた者 若干人

2 委員は、やむを得ない理由により出席できない場合は、委員長に委任状を提出し、議事を委員長へ一任することができる。

(任期)

第4条 前条第1項第3号から第5号までの委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠又は増員による委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数（第3条第2項の委任状を提出した委員の数を含む。次項において同じ。）が出席し、かつ、第3条第1項第3号の委員のうち少なくとも1名が出席しなければ、会議を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員の代理出席)

第7条 第3条第2項の規定により委員会を欠席する委員は、委員長承認を得て代理人を出席させることができる。ただし、代理人は、議事に加わることはできない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、関係課等の協力を得て、企画総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この細則は、平成22年1月21日から施行する。

2 この細則施行後、最初に任命される第3条第3号、第4号及び第6号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成24年2月16日細則第12号）

この細則は、平成24年2月16日から施行する。

附 則（平成27年6月2日細則第7号）

この細則は、平成27年6月2日から施行する。

附 則（平成28年5月24日細則第4号）

この細則は、平成28年5月24日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（令和4年4月1日畜大細則第1号）

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和7年6月18日畜大細則第2号）

この細則は、令和7年6月18日から施行する。

別紙様式（第3条関係）

委任状

年 月 日

帯広畜産大学基金運営委員会委員長 殿

委員氏名

私は、帯広畜産大学基金運営委員会細則第3条第2項の規定に基づき、 年 月 日開催の帯広畜産大学基金運営委員会に関する議事について、委員長へ委任します。

代理人 所属

職名

氏名

※ 同細則第7条の規定に基づき、代理人を指名する場合は代理人についてご記入ください。

発 行 令和8年8月
編集発行 国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学
企画総務課 基金・広報係
所 在 地 〒080-8555
北海道帯広市稲田町西2線11番地
電話番号 (0155) 49-5219
<https://www.obihiro.ac.jp/fund>
